

甲賀市第2次総合計画の構成と 基本構想のたたき台

1. 甲賀市第2次総合計画の構成（案）

現総合計画及び総合戦略の内容を踏まえて、以下の構成を想定しています。

構成内容	備考
はじめに	市長巻頭言
この計画について	(現計画 P. 1～P. 10)
(1) 甲賀市のすがた (2) 人口推計 (3) 時代の潮流 (4) 計画の構成と役割	(1) 市の「魅力」を前面に出して記述。 (2) 人口ビジョンをベースに記述。 (3) これまでの10年間の社会の動き。 (4) 計画期間について記載します。 >基本構想：12年間 >基本計画 (1期：4年間、展望：12年間)
基本構想	(現計画 P. 11～P. 20)
1. 将来都市像 (1) まちや人のすがた (2) 人口フレーム (3) 都市構造 2. 政策の大綱	1. 現計画の基調を踏襲 (1) 現キャッチフレーズを活かし、これまでの総合戦略の議論を踏まえて (2) 人口ビジョンをベースに作成します。 (3) 都市計画マスタープランと整合 2. 総合戦略との整合を図ります。
基本計画（第1期）	(現計画 P. 21～P. 109)
1. 重点プロジェクト 2. 施策の体系 3. 分野ごとの施策（戦略「基本施策」を考慮） 4. 計画の推進 (1) 進行管理 (2) 協働……など	1. 重点プロジェクト（現計画 P. 84） → 総合戦略のリーディングプロジェクトと3つの基本施策を軸に構成します。 2. 施策の体系（樹形図など）（現計画 P. 22） 3. 分野ごとの施策（現計画 P. 23～） → 成果指標を設定します <u><管理システムを踏まえた階層構造の設計></u> [施策領域] [分野] [施策；施策目標；状態像／指標] [（主な）事務事業] 4. 計画の推進（現計画 P. 111～） (1) 進行管理 (2) 協働……など 議決事件（網かけ以外：計画期間中の変動があるため）
資料編	(現計画 P. 113～)
・ 諮問・答申文・審議会・検討の経緯 等	

2. 基本構想のたたき台

現総合計画の内容を再編し、総合戦略とした内容を含めたたたき台を以下に示します。

構成内容	備考
<p>1. 将来都市像</p> <p>(1) まちや人のすがた</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>将来のまちの姿を表現する。 現：人 自然 輝き続ける あい甲賀</p> </div> <hr/> <p>○将来の甲賀市では、四季にうつろう自然の恵みや、“本物”が放つ歴史の薫り、また、それらのもとでの日々の暮らしのなかで、誰もが「満足」や「幸福」を実感しています。</p> <p>○住民の自治に根ざして、みんな健康でいきいきと、安心して豊かに暮らし、もし誰かが不幸に苦しむことがあれば、まわりからたくさん温かい手が差し伸べられます。</p> <p>○広域的な交流を支える交通条件が活き、地域の産業活力が高く保たれるとともに、「忍者」をテーマとしたシティ・プロモーションも奏功し、世界中の企業や人から選ばれるまちとなっています。</p> <p>○市民幸福度が高い、元気なまちだからこそ、まちの外から人々が集まり、若者はまちに留まり、新しい家族が生まれて、子どもの声があふれています。</p>	<p>(現計画 P.12 ～ P.14)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現構想から「輝き」「自然」「歴史」「交通条件」「交流」「産業」「活力」のキーワード抽出。 総合戦略の理念をベースとして、12年後の「まちや人のすがた」を「状態像」として記述。
<p>(2) 人口フレーム</p> <p>本市人口は、過去20年の間、増加を続けてきましたが、平成17年の93,853人をピークとして人口減少に転じ(国勢調査)、平成27年には90,927人となっています。</p> <p>さらなる人口減少と高齢化が急激に進む予測のもと、本市では、平成28年2月に「甲賀の國づくりプロジェクト(甲賀流まち・ひと・しごと創生総合戦略)」を策定しました。</p> <p>同計画において、平成72(2028)年に人口減少を73,000人に留める人口ビジョンを描き、次世代が暮らす「元気なこうか」をつくるため、5年間の集中的な戦略を展開しているところです。</p> <p>これらを踏まえて、基本構想における人口フレームを次のとおり設定し、人口減少の緩和策の効果をにらみつつ、人口規模に相応する都市環境の維持・向上のためのマネジメントを図ります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>平成40(2028)年に人口87,000人</p> </div> <p>(平成72(2060)年に人口73,000人)</p>	<p>(現計画 P.15)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口ビジョンで描いた人口推移から設定。 人口推計と人口ビジョンを「この計画について」で前掲します。

構成内容	備考
------	----

<p>(3) 都市構造</p> <p>(視点)</p> <p>ア. 人口減少を踏まえた集約型都市構造への転換 (ア) メリハリのある都市構造。「都市は都市らしく。農村は農村らしく。」 (イ) 中心市街地における空地（空き地）の活用</p> <p>イ. 地域の生活拠点の機能維持（ふるさと集落生活圏の形成） (ア) 高齢化に対応した定住環境の維持 (イ) 旧5町から引き継いだ公共施設ストックの整理 (ウ) 空き家、耕作放棄地の活用および除却</p> <p>ウ. 基幹的な公共交通サービスの水準確保 (ア) 公共交通幹線軸の強化と、それらを中心とした居住誘導 (イ) 各地域をつなぐ機動性の高い公共交通ネットワーク</p> <p>(参考)</p> <p>[総合計画「空間づくりの基本方針」]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 豊かな自然環境をまもり、その恵みが感じられる暮らしの空間を創造します ○ 新名神高速道路を活かし、各地域を効果的に結びつけるネットワークを確立し、交流と連携を促進します ○ 地域の立地特性と資源を活かした特色ある産業活動や、市民・来訪者のにぎわいを生み出します <p>[都市計画マスタープラン「都市づくりの展開方向」]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 総合的な土地利用規制・誘導方策による自然・文化環境と共生する都市づくり (2) 集約型都市構造の都市づくり (3) 安全で快適な都市環境づくり (4) 第二名神高速道路・国道1号等を活かした多核的な都市拠点づくり (5) 地域交通ネットワーク等の連携による安心で快適な都市づくり 	<p>(現計画 P.16)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現「まちの空間づくりの基本方針」を考慮して記述。 ・ 都市計画マスタープランの考え方との整合を図る。
<p>2. 政策の大綱（案）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) “甲賀流”で世界を魅了する (2) 将来世代のかがやきを育む (3) 自然のめぐみに彩られた暮らしを楽しむ (4) 安全なまちと、心が通いあう安心をつくる (5) 市民自治のみらいを拓く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画の施策領域を全網羅的に配することはしない（考慮はする） ・ 総合戦略、市民アンケート、おしゃべりカフェの内容・成果を考慮する。
<p>(「基本構想実現に向けて」) ⇒ (割愛)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「基本構想実現」のために策定するのが「基本計画」のため、係る項目は割愛する。

都市構造の課題

課題：甲賀市を活力ある都市として持続させるため、都市構造を方向転換する必要がある

都市づくりの現状

市街地の郊外への拡大

- ・ 自家用車利用の普及に支えられ、市街地が国道1号の北側や希望ヶ丘等の郊外に拡大

一定の都市機能の集積

- ・ 水口の中心部等、地域の拠点周辺においては、日常生活に必要な都市機能が一定程度集積

公共交通の衰退

- ・ 自動車の所有や利用が増加した一方で、公共交通機関の利用者は、減少傾向

人口減少・高齢化・厳しい財政状況



このまま放置した場合の問題点

(居住機能)

- ・ 空き地や空き家等が増加し、高齢者を中心とした住民が点在して居住する
- ・ 各施設までの移動が困難になる

(地域別)

- [水口]
→人口減少が加速
- [希望ヶ丘、貴生川]
→急速な高齢化
- [甲南、甲賀、土山、油日、信楽]
→徒歩圏での都市機能不足

(都市機能)

- ・ 日常生活に必要な都市サービスが身近に利用できなくなる

(公共交通)

- ・ 高齢者等の交通弱者の外出機会が失われる

新たな都市構造の構築が必要

新たな都市構造【視点】

- ア. 人口減少を踏まえた集約型都市構造への転換
 - (ア) メリハリのある都市構造。「都市は都市らしく。農村は農村らしく。」
 - (イ) 中心市街地における空闲地（空き家、空き地）の活用
- イ. 地域の生活拠点の機能維持（ふるさと集落生活圏の形成）
 - (ア) 高齢化に対応した定住環境の維持
 - (イ) 旧5町から引き継いだ公共施設ストックの整理
 - (ウ) 空き家、耕作放棄地の活用および除却
- ウ. 公共交通サービスの水準確保
 - (ア) 公共交通幹線軸の強化と、それらを中心とした居住誘導
 - (イ) 各地域をつなぐ機動性の高い公共交通ネットワーク

＜重点プロジェクト（案）＞（現計画 P. 84～P. 86）

- (1) “甲賀流”のシティ・プロモーションの展開（まちを売り込む）
- (2) ふるさと集落生活圏づくり（持続可能なむらづくり）
- (3) 学ぶ子に答え“生きる力”を育む（教育環境の充実）
- (4) 自治振興会のステージ・アップ（自治振興会活動の充実）

※その他、「子育て支援」「産業振興」「市街地整備」などの設定を検討。

※より具体的な施策（事業に近いレベル）で、今後4年間に重点的に取り組むことを明記

【参考】

甲賀の國づくりプロジェクト—甲賀流まち・ひと・しごと創生総合戦略—

リーディングプロジェクト みんなの憧れを集め、選ばれる都(みやこ)をつくる

其の壱 世界を「忍者」で魅了する！！感幸創生プロジェクト

其の弐 未来モデルの“都(みやこ)”を創る！！コンパクト・ビレッジ+ネットワーク構想

基本施策1 甲賀らしい、市民幸福度の高い「まち」を追求する

- ① 世界基準の安全・安心の推進
- ② ふるさと集落生活圏の形成

基本施策2 “ふるさと愛”を醸成して「ひと」を育てる

- ③ 学ぶ子に答え“生きる力”を育む
- ④ こうかで1 more baby

基本施策3 域内経済の好循環を導いて「しごと」を生み出す

- ⑤ 「活躍したい」をかなえる
- ⑥ 地域の「稼ぐ力」アップ